



人サポート会員の会費は月額二万円に設定しています。

福西 大企業だけでなく、中小企業も、そして個人も、誰でもが応援できる仕組みというところがすばらしいですね。

アスリートの、

人間性まるごとを応援したい

福西 今、BLUETAGが支援しているアスリートの人数は、どのくらいでしょう。

今矢 八〇人くらいです。今年は一〇〇人まで増やしたいと思っています。

福西 支援するアスリートは、どのように決められているのですか。

今矢 自薦や他薦で応募が来ますが、必ず一人ひとり面接し、認定アスリ

ートを決めています。ぼくは、最高のアスリートは最高の人格者でなくてはならない、と思うんです。ですから、競技者として強くなり、結果を出せる環境を作るサポートをしていくことはもちろんですが、それ以上、アスリートが一人の人間として成長していく過程を応援したいと考えています。

福西 ただ強ければいい、メダルが取ればいい、というわけではないんですね。

今矢 トップアスリートといわれる人間は、競技から学んだことを通し、社会に貢献したい、実現させたいという何かを必ず持っています。なぜなら、メダルを取ること、現役の競技選手であることも、人生においては通過点にすぎず、そしてそのことを、本人自身がよくわかっているからです。子供たちとの触れ合いを通じて競技を普及させたい、清掃登山を通して環境保全を呼び掛けたい、講演会を全国でやってみたい、体験会を開催したいなど、社会の一員として自分だからこそできることを、求めているのです。

福西 そうした取り組みは、私たちにとってもたいへんありがたいことです。

今矢 日本には「心技体」という言葉がありますが、一流のアスリートは、身体能力だけではなく、強靭な

精神力の積み重ねが不可欠なんです。高い人間力ですね。

日本の教育の現場では、たとえば運動会の徒競走で、みんなで手をつないでゴールさせるようなことをやっています。勝つ喜び、負ける悔しさ、こういう感情を奪う教育が続いたら、日本はたいへんな国になってしまうでしょう。いい意味で競争することを子供の頃から学ばないと、がんばるということ自体がわからなくなってしまう。アスリートたちは、自らの体験を通して嘘のないメッセージを届けられる貴重な人材になり得ると思っています。

ビジネスアスリートとして 走り続けます

福西 起業されて三年目を迎えられる、これから先はどんなことを考えていますか。

今矢 BLUETAG認定アスリートの活動や競技を広く知ってもらい、個人のファンをもっと増やす。また、法人サポート会員にも「応援しがいのある発信内容や顔の見える交流」を、より拡充させていきたいと考えています。

ぼく自身、常にビジネスアスリートであり続けたいと思っています。明確な目標、勝つ意識、そして行動。これはビジネスに通じるアス

リートマインドです。ぼくはオリンピックの選手にはなれなかったけれど、アスリートとしてのマインドは伝えることができる。たくさん感動を伝えられる会社になりたい。挑戦と失敗、試行錯誤の連続ですが、ビジネスアスリートとして、走り続けます。

福西 「まだ無名だけど一流の、この選手を私は応援しているよ」「うちの会社は、この選手の未来に懸けている。応援しているんですよ」という個人や企業が増えてほしいですね。最後に、総務部門のみなさんにメッセージをいただけますか。

今矢 総務は、社内のマナー・ケティンク部門であると思います。そして、社員に情報発信する部署でもある。元気で明るい情報を発信すれば、きっと社員も元気になると思うのです。そのためにぜひ、BLUETAGをご活用ください(笑)。「アスリート」「スポーツ」という「共通した言語」を共有し、縦・横・ナナメの社内コミュニケーションにつなげてほしい。自分たちで応援していると胸を張れるアスリートを見つけ、みんなで応援する喜びを共有してほしい。その喜びや感動が、日本のスポーツを文化に押し上げていく力になる。そう信じています。